

その答えが次に書かれていますね。

兄	取銀106貫666匁6分6厘
二男	同93貫333匁3分3厘
三男	同80貫目
四男	同66貫666匁6分6厘
五男	同53貫333匁3分3厘
五口銀合わせて400貫目	

2. 「しょうむ分け」を解くぞ！

早速解法を見てみましょうか。読下し文と現代文で提示します。まず読下し文。

銀四百貫匁と右に置く。五人に割れば八となる。これをしょうむ分けの法十五に割れば五十三貫三百三十三匁三厘となる。これを三歩三厘と倍して百六貫六百六十六匁六分六厘となる。これ兄の金也。右の五十三貫三百三十三の弟の金、右に置く。五人故、四人に割れば十三貫三百三十三匁三分三厘となる。これ引く金也。兄より次第に引けば兄の半分、弟銀になる也。

次が現代文。

銀四百貫を五人で割ると八十貫になり、これをしょうむ分けの法十五で割ると五十三貫三百三十三匁三厘となります。これを三歩三厘と倍して百六貫六百六十六匁六分六厘となり、これは長兄の金です。右の五十三貫三百三十三匁三厘は五男の取分の金です。五人だから四で割って、十三貫三百三十三匁三分三厘となります。これが兄弟ごとに引いていくお金となります。長兄から順に引いていけば、長兄の半分が弟の銀になりますよ。

1つ1つ現代文でみていきましょう。

銀400貫を5人で割ると80貫になり、これをしょうむ分けの法15で割ると53貫333匁3歩3厘となります

銀400貫を5人で分ける。つまり均等に分けると、

$400 \div 5 = 80$ (貫)・・・平均した一人分の取り分・・・三男の取り分のは

ず

これを、「しょうむ分けの法15」で割る

$$80 \div 1.5 = 53.33333 \dots$$

ここで「15で割る」と書いてあるのですが、「15で割る」と答えは「5.333...」となってしまう、「53.33333...」にはなりません。そこで「1.5」で割ってみたところ、本文通りの答えになった次第です。

これを二倍すると106貫666匁6分6厘となり、これは長兄の金です。右の53貫333匁3歩3厘は五男の取分の金です。

$$53.33333 \times 2 = 106.66666 \text{ (貫)}$$

さらに、

五人だから4で割って、13貫333匁3分3厘とります。これが兄弟ごとに引いていくお金となります。

$$53.33333 \div 4 = 13.333325 \\ \div 13.33333$$

長兄から順に引いていけば、長兄の半分が弟の銀になりますよ。

$$\text{二男: } 106.66666 - 13.33333 = 93.33333$$

$$\text{三男: } 93.33333 - 13.33333 = 80$$

$$\text{四男: } 80 - 13.33333 = 66.66666$$

これで答えは求められたのですが、何か分かったような分からないような...